

2024 年度 事業報告書

たかし保育園市川二俣

1. 管理業務の実施予定

①事業内容

開園時間	月～金	7:00～20:00
	土	7:00～19:00
産休明け保育		生後6ヶ月から受け入れ

②クラス編成

定員40名（運営定員 43名）

	クラス名	定員	運営定員	4月在園時予定数
0歳	めばえ	4	5	1
1歳		6	6	8
2歳	ふたば	6	8	8
3歳	みのり(3.4.5歳児 異年齢保育)	8	8	7
4歳		8	8	7
5歳		8	8	4

③職員体制

園長	1名	岡本
主任保育士	1名	百瀬
保育士	10名	橋本、鳴川、阿久津、金子、小林、三木、滋野、相樂、 竹内（香）、岩本
栄養士	2名	竹内、安生

2. 年間行事実施予定

4月	慣らし保育 内科健診
5月	遠足（3～5歳児） 尿検査 歯科検診
6月	姉妹園交流
7月	七夕の集い プール遊び 夏祭り
8月	プール遊び
9月	総合避難訓練
10月	遠足（3～5歳児）
11月	運動会 内科健診

1 2 月	歯科検診 クリスマス会 もちつき
1 月	初詣
2 月	発表会 節分の集い
3 月	ひなまつり 卒園式・修了式 お別れ遠足（親子） 異年齢交流
毎月実施	避難訓練 身体測定 誕生会（3～5歳児）＊0～2歳児は個別実施 クッキング（3～5歳児） さわってみよう（0～2歳児）
その他	姉妹園交流会（3～5歳児） 地域交流 実習生・職場体験・ボランティア受け入れ

3. 研修予定

①外部研修参加予定

研修名	対象者
会主催研修会	保育士・栄養士
全国市立保育連盟主催研修会	全職員
千葉県民間保育振興会主催研修会	全職員
全国保育協議会主催研修会	全職員
日本保育協会主催研修会	全職員
各保育業者主催研修会	保育士
保育園視察研修（公開保育）	保育士
【市川保健所主催研修会】 感染症研修会 給食施設衛生研修会 【市川市主催保育研修会】 保育士・栄養士研修会 施設長研修会 【市川子ども子育て支援施設協会主催研修会】 保育士・栄養士研修会 施設長研修会	保育士・栄養士
研修名	対象者
新人保育士研修会	新採用保育士
【保育大会】 全国市立保育園研究大会 全国保育協議会 全国保育士会研究大会 千葉県保育研究大会 保育所長研修会	全職員 全職員 全職員 全職員 園長
千葉県社会福祉施設経営者協議会主催研修会	園長
キャリアアップ研修会	処遇改善Ⅱ対象職員

②内部研修

【保育会議】

- ・保育士を対象に月に1回実施
- ・保育会議において各クラスの情報を共有し、クラスの具体的な問題点を考えて解決に結びつけ、保育の質の向上を目指していく

【園内研修】

- ・保育士を対象に「保育指針」について理解し学び合う
- ・「たかし保育園市川二俣基本マニュアル」に基づいて職員教育を行う
- ・感染症対応、ケガや救急救命の対応、事故防止、事故対応など
各種マニュアルについて研修を行うと共に、マニュアルを見直していく
- ・各々受けた研修を報告し合い、保育に活かせるよう知識を高めていく
- ・こども一人ひとりの発達に合わせた保育を提供できるようケース会議を行い、職員間の
共通理解を図る
- ・保育士を対象に、事例を通して自分の保育を振り返る機会を設ける

③法人内研修

【担当者研修】

- ・法人内の各園に勤務する同年齢や同職種を担当している職員が、オンラインまたは集まってそれぞれの業務に関する悩みを相談したり意見交換したりすることで学び合うことを目的としている
- ・0～5歳児担任、新人職員、主任、栄養士、副主任等に分類し、担当別に行う

4. 資金収支予算書

別紙参照

5. 地域交流

- ・東京経営短期大学小川助教授（体育指導）、古谷学科長補佐（音楽指導）による交流。
- ・近隣農家より農地を借用し、農業体験を行う。
- ・市川市立二俣小学校との交流。

6. 評価及び反省

(1) 児童処遇について

0. 1 歳児クラスでは食事への取り組みに力を入れた。令和 6 年度は食事中に座ることができない、食への興味を示さない、おやつ等好きなものは食べるが食事には手をつけないお子様が多く見られた。家庭での食事状況、保育園での食事への取り組みなど情報交換を行い、食への関心を抱き、自ら食べる力を育めるよう努めた。
 - 2 歳児クラスでは感情的になるお子様が多く、職員配置を手厚くし 1 対 1 で関わる時間を設け、職員室などで落ち着いて過ごす環境を整えるようにした。保護者面談を重ね一部改善に向かうこともあったが精神面の問題も見受けられたため、支援センターとの連携を図りながら対応した。
 3. 4. 5 歳児クラスは東京経営短期大学、近隣住民の方と農業体験、市川市立二俣小学校との交流を重ね、老若男女問わず色々な方々と人間関係を築き、知識やマナーを身につけられるようにした。また、図書館や公共施設など利用して外出し、公共の場を利用する際のマナーやお約束を身につけられるようにした。電車を利用して移動する際にはみんなが思いやり、マナーを守って利用できるように心掛けることができた。
- 全体的に年齢と比べ幼い姿が目立ったが保護者との話し合う機会を持ち、個々に合わせた援助を促すことで自立に繋げることができた。

(2) 全般について

- 令和 6 年度は安全管理、食への関心、子どもとの接し方、職員間のコミュニケーション、近隣の方々との関わりに重点をおいて取り組んだ。
- 安全管理についてはヒヤリハットの報告や事例を過去に遡って集計し、安全に保育できる環境を職員間で共通理解した。
- 食への関心については月に 1 度行う食育活動や農業体験を全年齢で行い、食材へ触れる機会を設けた。
- 子どもへの接し方については児童虐待や食事提供時の問題を取り上げ、新聞記事や市役所からの通達をもとに職員へ周知しその都度会議を設け解決に向けて話し合った。
- 職員間のコミュニケーションについては年齢の異なるクラスの交流を持ち、職員間で子どもの能力に合わせた計画をたて、意見交換を行ったことで共にイベントを盛り上げることができた。このことで意見交換を密にでき伝達事項のミスが減った。
- 近隣の方々との関わりについては東京経営短期大学の授業の中で体力測定、運動遊び、楽器を使った演奏、リトミックなど学生との交流を持ちながら参加した。農業体験では年配の方からスコップや鍬の使い方、栄養豊かな土壌作りから種植え、収穫に至るまでご指導いただいた。市川市立二俣小学校では 1 年生を中心に昔遊びや集団遊びを通して制作を教えてもらったり、一緒に遊びを楽しんだりと関わりを持つことができた。